

鉄道分野における利用者の利便性向上のための データ整備・連携・オープン化等について

令和2年4月23日
国土交通省 鉄道局

- 1 鉄道分野においては、以下の政策目的を実現するため、鉄道事業者による情報提供(データ整備)の充実・事業者間(他の交通モードも含む)の連携を進めている。

異常時(災害時など)における適切な情報提供

インバウンド旅客の受入環境整備

バリアフリー化の推進

その他鉄道利用者の利便性確保

- 1 異常時には鉄道利用者の行動判断に資する情報を適切に提供することが重要。
- 1 このため、鉄道局においてガイドラインを策定するとともに、鉄道各社において、利用者の行動判断に資する情報提供の充実や事業者間での連携に向けた取組を進めている。

ガイドラインの策定

- 1 鉄道局において、新幹線における異常時の情報提供に関するガイドライン(「異常時における訪日外国人旅客への情報提供(新幹線)に係る対応指針」)を策定(平成31年1月30日)。
- 1 また、鉄道の計画運休実施時の情報提供に関するガイドライン(「鉄道の計画運休の実施についての取りまとめ」)を策定(令和元年10月11日)。
- 1 これらのガイドラインでは以下の事項等を定めており、ガイドラインに基づき、各鉄道事業者において情報提供の充実に向けた取組を進めている。
 - 遅延の発生状況、点検・復旧作業の進捗状況、運転再開見込み、入場規制の状況、払戻し方法等の利用者の行動判断に資する情報の発信
 - ウェブサイトやSNSにおける情報提供
 - 少なくとも30分間隔での更新
 - 次回の更新予定時刻などの情報についても提供
 - 駅頭掲示や車内に貼付等されたQRコードからウェブサイトへの誘導
 - 列車の在線位置をリアルタイムに情報提供する仕組みのできる限り早期の整備
 - 空港(旅客ターミナル施設事業者)との連携確保

各鉄道事業者の取組

1 下記以外にも、各鉄道事業者において様々な取組を進めている。

駅頭掲示・車内へのQRコード掲出

	駅頭掲示	車内
JR北海道	2019年2月～	2019年2月～
JR東日本	2019年2月～	2019年2月～
JR東海	2019年3月～	2019年3月～
JR西日本	2018年7月～	2019年2月～
JR四国	2019年1月～	2019年7月～
JR九州	2019年1月～	2019年3月～



QRコード
(例: JR東海・JR西日本、車内座席背面シール)

QRコード
(例: JR東日本、駅頭掲示)

SNSによる情報発信

	開始時期
JR北海道	2019年2月～
JR東日本	2018年12月～
JR東海	2019年3月～
JR西日本	2018年8月～
JR四国	2019年3月～
JR九州	2019年1月～



SNS (例: JR東日本、ツイッター)

各鉄道事業者の取組

- 1 鉄道駅で他の交通モードの運行情報を提供するなど、交通モード間での連携に向けた取組も進めている。

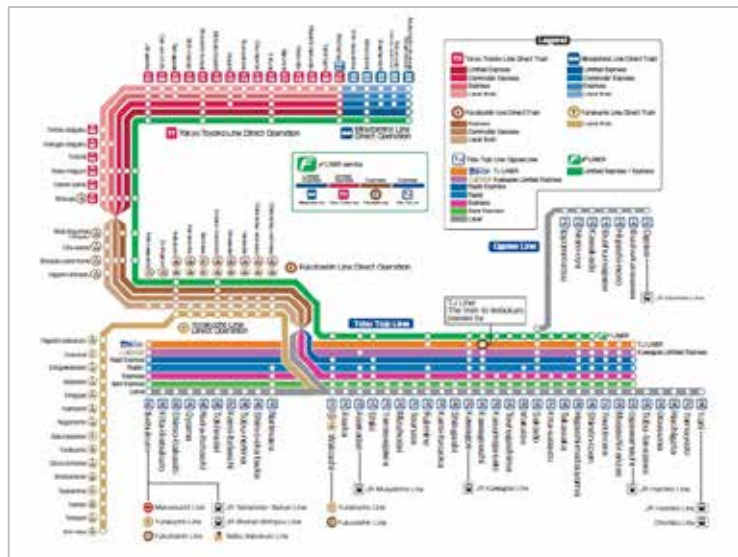


(例) JR札幌駅や札幌市営地下鉄・大通駅において、新千歳空港の航空機運航情報を提供

- 1 インバウンド旅客の受入環境整備として、インバウンド旅客が必要とする情報を積極的に発信していくことが重要。
- 1 このため、鉄道各社において、インバウンド旅客向けの情報提供の充実や事業者間の連携に向けた取組を進めている。

各鉄道事業者の取組

- 1 路線図や駅構内図、運行ダイヤ等について、多言語で情報提供。
- 1 日本の駅名に不慣れなインバウンド旅客向けに、アルファベット・数字と色で路線や駅を識別する駅ナンバリングを実施。
- 1 大型の荷物を携行するインバウンド旅客向けに、駅のコインロッカーのリアルタイムの空き状況について多言語で情報提供。



路線図
(例: 東武鉄道
ウェブサイト)

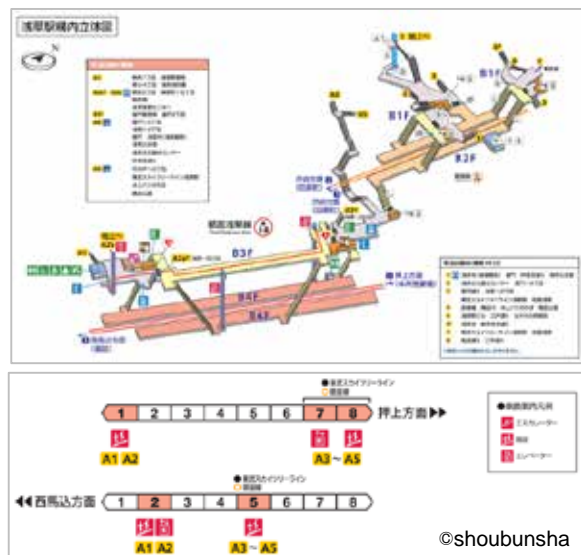


(例) 東京メトロ
ウェブサイト

- 1 高齢者、障害者、乳幼児連れ(ベビーカー利用)といった多様な利用者が安全・安心して鉄道を利用するためには、バリアフリー化を推進することが重要。
- 1 このため、鉄道各社において、バリアフリーに関する情報提供の充実や事業者間の連携を進めている。

各鉄道事業者の取組

- 1 駅の構内図や地上出口等に関する情報を提供。



東京都交通局 ウェブサイト

- ・立体の駅構内図(上図)
- ・各車両からの乗換案内(下図)



東京メトロ「ベビーメトロ」

- ・各地上出口がどこにつながっているかを地図上で表示

- 1 各車両のフリースペースや優先席の位置等に関する情報を提供。



西武鉄道「西武線アプリ」

- 1 前記 ~ 以外にも、鉄道利用者の利便性確保に向けた取組を進めることが重要。
- 1 このため、鉄道各社において、利用者の利便性向上に資する各種情報提供の充実や事業者間の連携を進めている。

各鉄道事業者の取組

- 1 駅構内や車両の混雑状況について、ウェブサイトやアプリで情報提供。
- 1 駅トイレの空き状況について、ウェブサイトやアプリで情報提供。



東急電鉄「東急線アプリ」
駅構内のカメラ映像を活用し、改札の混雑状況をリアルタイムで確認可能。

JR東日本
「JR東日本アプリ」
山手線の各車両の混雑状況をリアルタイムで確認可能。



南海電鉄
「南海アプリ」



東京メトロ
「東京メトロ公式アプリ」

Ⅰ 鉄道と他の交通モード間での乗り継ぎの円滑化に向けた取組等も進めている。

各鉄道事業者の取組

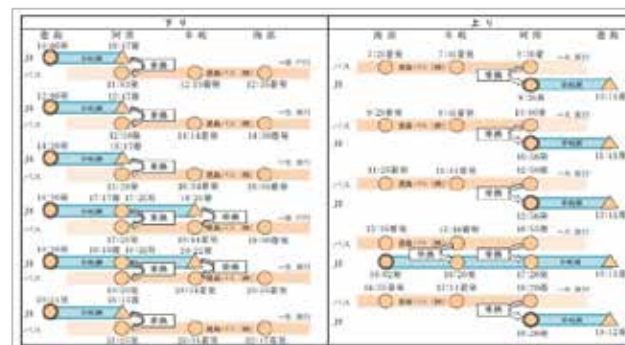
Ⅰ 鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化に向けて、他の交通モードの運行情報の提供や運行ダイヤの調整等を実施。

JR九州と西日本鉄道グループの連携



- JR九州と西日本鉄道グループ(西鉄バス)が連携し、JR下曽根駅における鉄道とバスの乗り継ぎ利便向上に向けた取組を実施。
 - 下曽根駅において列車と接続するようにバスの運行ダイヤを調整。
 - 駅構内においてバス時刻表・バス接近情報を表示(左図)、バス車内において列車時刻表を表示(右図)。
 - 乗り継ぎ利用者に対してポイントを付与。

JR四国と徳島バスの連携



- JR四国と徳島バスが連携し、阿南駅における鉄道とバスの乗り継ぎ利便向上に向けた取組を実施。
 - 阿南駅において、JR四国の特急列車と徳島バス的高速バスが接続するように運行ダイヤを調整。
 - 高速バスを途中駅周辺のバス停留場でも乗降可能に。